

## 參考資料



# 1 インタビュー調査の概要

国立研究開発法人建築研究所では、高齢者の地域活動への参加を促す仕組みを検討するために、「健康長寿社会に対応したまちづくりの計画・運営手法に関する研究（研究期間：平成26～27年度）」の一環として、高齢者を中心として地域活動を行う団体を対象にグループインタビュー調査、個人インタビュー調査を実施しました。ここではその概要を示しています。

## 1 調査対象団体の選定

### (1) 対象とする活動の種別

今回の調査において対象とする地域活動の種別は、①防犯パトロール、子ども見守りなど地域の安全・安心に資する活動(安全・安心活動)、②道路、公園など都市ストックの適正管理に資する活動(維持管理活動)の2類型とし、各類型5団体(計10団体)に調査を実施しました。



防犯パトロール、子ども見守りなど地域の安全・安心に資する活動(安全・安心活動)



道路、公園など都市施設の適正管理に資する活動(維持管理活動)

## (2) 対象とする団体の条件

今回の調査における知見が、日本各地で参考となり、実際に取り組めるものとするために、抽出における前提条件と活動主体・地域類型に係る留意事項を踏まえて、調査対象とする団体を選定しました。なお、安全・安心活動の調査対象の抽出にあたっては、東京都青少年・治安対策本部総合対策部安全・安心まちづくり課と共同で調査を実施するため、東京都下で活動している2団体を対象とすることとしました。

### ■抽出における前提条件

- ・活動団体の人数は概ね20人以上、活動団体の実績は最低5年以上の団体  
(活動団体内の担い手の世代交代をしている団体を優先的に抽出)
- ・自主的に地域活動に参画している高齢者が多く、地域活動の運営を工夫している団体  
(義務感から地域活動に取り組み始め、地域活動に取り組む中で活動内容が発展的になり、自主的に地域活動に取り組んでいる団体も含む)
- ・指定管理者には位置づけられていない活動団体

### ■活動主体・地域類型に係る留意事項

- ・地域類型は、安全・安心活動、維持管理活動の各類型において、首都圏から4団体、地方都市から1団体を抽出しました。なお、首都圏については、住宅地の環境が地域活動に対して影響を及ぼすことが考えられるため、計画戸建住宅地、集合住宅団地、その他住宅地の3類型を踏まえ、各類型の団体抽出のバランスを考慮して抽出しました。
- ・活動主体の特性が、活動内容や参加者の心理に影響を与えていると考えられることから、活動主体を地縁系主体とテーマ型主体に分けて、各類型の団体抽出のバランスを考慮して抽出しました。

#### 地縁型主体の団体

- ・住民団体、ボランティア団体
- ・公民館活動団体 等

#### テーマ型主体の団体

- ・福祉系団体
- ・NPO団体 等

表 1-1 調査対象団体の一覧

調査対象団体	所在地	地域類型	活動主体	加入者数	現団体活動の開始時期	活動頻度	
安全・安心活動	東初石1丁目自治会 自主防犯パトロール隊	千葉県 流山市	首都圏 ／その他住宅地	地縁型	約80名	平成17年	毎日
	幸町1丁目防犯 パトロール隊	千葉県 千葉市美浜区	首都圏 ／集合住宅団地	地縁型	約130名	平成17年	毎日
	亀戸2丁目団地 管理組合自治会*	東京都 江東区	首都圏 ／集合住宅団地	地縁型	約100名	平成16年	週1回
	足立区長門南部町会*	東京都 足立区	首都圏 ／その他住宅地	地縁型	約80名	平成7年	月2回
	近文あい運動	北海道 旭川市	地方都市	テーマ型	約250名	平成18年	毎日
維持管理活動	グループけやき	東京都 板橋区	首都圏 ／その他住宅地	テーマ型	約40名	平成12年	週1回
	青葉美しが丘 中部地区アセス委員会	神奈川県 横浜市青葉区	首都圏 ／計画戸建住宅地	地縁型	約20名	平成16年	月1回
	さつき台自治会 公園愛護会	神奈川県 横浜市港南区	首都圏 ／計画戸建住宅地	地縁型	約20名	昭和51年	月2回
	高麗川ふるさとの会	埼玉県 坂戸市	首都圏 ／その他住宅地	テーマ型	約100名	平成15年	週1,2回
	戸畑区老人クラブ 友親会	福岡県 北九州市戸畑区	地方都市	テーマ型	約30名	平成16年	月2回

※：安全・安心活動のうち、都内で活動する2団体の調査は、東京都青少年・治安対策本部総合対策部  
安全・安心まちづくり課との共同調査として実施しました。

## 2 調査の方法

### (1) グループインタビュー調査の方法

グループインタビュー調査では、団体のリーダーを含む現在の活動を良く把握されている数人が一堂に会し、これまでの活動の経緯をご確認いただきながら、団体インタビュー形式で高齢者の参加を促す工夫点や高齢者に与える影響、地域に与える影響等について伺いました。

#### 団体へのインタビュー内容

- ・ 活動の経緯と今後の展望、団体構成、活動内容
  - ・ 高齢者の参加を促す工夫点
  - ・ 活動における苦勞
  - ・ 概ねの活動予算
  - ・ 行政・他団体との連携、支援
  - ・ 高齢者に与える影響、地域に与える影響 等
- (インタビューの時間は各団体 60~90 分程度)

#### ☆個人インタビュー調査のイメージ

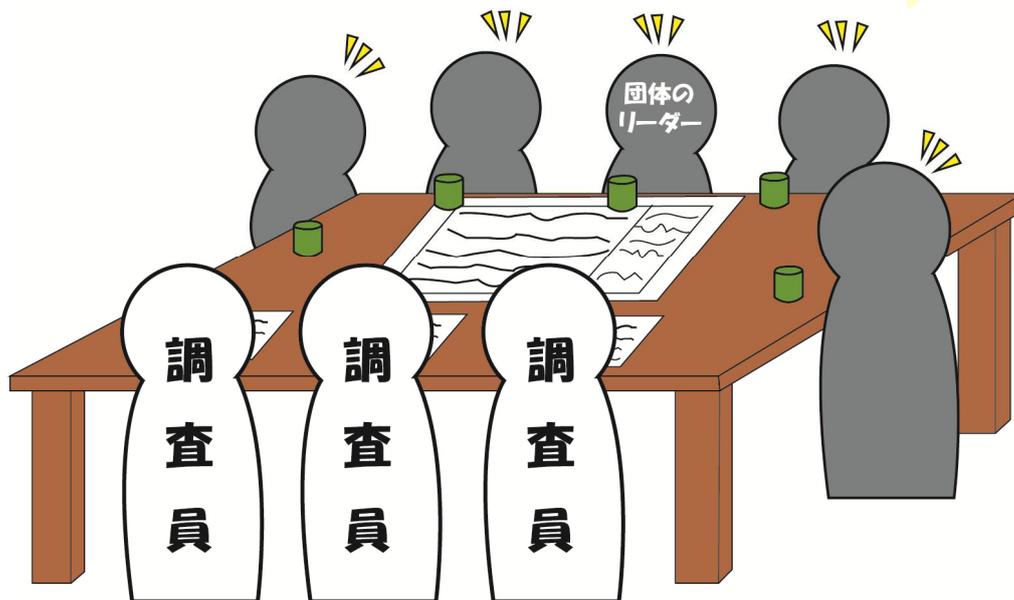


図 1-1 グループインタビュー調査のイメージ

### (2) 個人インタビュー調査の方法

個人インタビュー調査では、各調査対象団体から 5~7 名推薦いただき、調査対象者の選定にあたっての留意事項を踏まえて調査対象者を決定し、原則一名ずつ個人インタビュー形式で団体に参加した経緯や苦勞等について把握しました。但し、調査対象者の強い要望により、一部の方々には複数名同時に調査を実施しました。

## ■調査対象者の選定にあたっての留意事項

### ○調査対象者の前提条件

- ・ 55歳以上の定期的に活動に参加されている方

### ○調査対象者の選定にあたってバランスを考慮した条件

- ・ 当該活動団体を発足した頃から活動に参加している方
- ・ 当該活動団体を発足して3年程度経ってから活動に参加された方
- ・ 1～2年前から活動に参加された方

### ○調査対象者の選定にあたって加味した条件

- ・ 過去に活動への参加状況が変化された方  
例えば、「一時期参加頻度が低くなったけど、少ししてから元に戻った」等
- ・ 当該活動団体の活動に参加されたきっかけや動機が異なる方  
例えば、「友人・知人に紹介された」「活動を実際に見て面白そうだから」「ニュースやホームページを見た」等
- ・ 当該活動団体の今後の活動で、次世代の中心的な役割を担うと予想される方

### 個人インタビュー調査における個人へのインタビューの内容

#### 【活動に関連する事項】

- ・ 活動に参加した経緯、きっかけ、苦勞
- ・ 団体内での役割
- ・ 活動における苦勞
- ・ 地域とのかかわり方の変化
- ・ 自身にとっての活動の意味

#### 【合わせて伺った事項】

- ・ 住宅の所有形態
- ・ 現在の職業
- ・ 健康状態
- ・ 出生から現在に至るまでの歴史
- ・ 家族、親類の状況
- ・ 居住地区との関わり、自宅外の居場所

(インタビューの時間は1人当たり20～50分程度)

### ☆個人インタビュー調査のイメージ

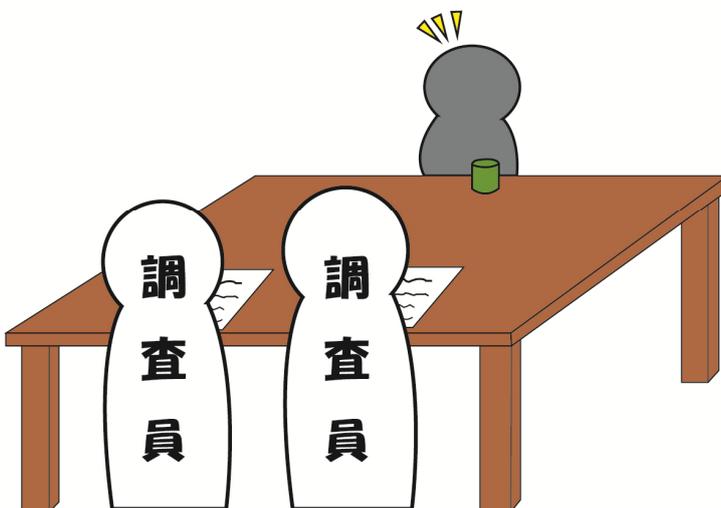


図 1-2 個人インタビュー調査のイメージ

### 3 団体インタビュー調査結果の整理

#### ■高齢者の参加を促す工夫点

安全・安心活動の高齢者の参加を促す工夫点		東初石	幸町	亀戸	長門南部	近文
参加者募集の 情報発信	自治会・町内会、老人会等を通じて参加者を募集する、声かけをする	●	●	●	●	●
	掲示チラシ、会報、ホームページを発行、公開によって、参加者を募集する	●	●			
参加者の負担 軽減	1回の活動における負担を小さくする	●				●
	一人一人の参加頻度を多くしすぎない		●	●	●	●
	参加日の変更を容易にできる環境を整える	●	●	●	●	●
活動の成果や 課題の共有	定期的に実態調査やアンケート調査を実施して、活動の効果を検証する		●			●
	活動の記録（月報等）を参加者に配布する	●	●			
	参加町内会／参加者同士で良い活動方法や悩み、成果等を共有する		●※			●
子どもや若い 世代との交流	地域の子供たちや子育て世代との交流会を定期的を開催する	●		●	●	●
	若い世代と一緒に活動する		●	●	●	
	小学校やPTA、その他の地域活動と連携して活動する		●	●	●	●

※最近取り組みとして始めたポイント

#### ■参加する高齢者に与える影響、地域に与える影響

安全・安心活動の参加する高齢者に与える影響、地域に与える影響		東初石	幸町	亀戸	長門南部	近文
参加する高齢者に 与える影響	メンバーの体力の向上につながっている	●				●
	メンバーの日々の充実感につながっている				●	●
	メンバーの防犯意識の向上につながっている			●		
	メンバー同士の交流の機会になっている	●				
地域に与える影響	地区や周囲の安全性が向上した	●	●	●	●	●
	住民が安心して暮らせるようになった	●		●	●	
	地区に住む高齢者の孤独死の防止につながっている	●			●	
参加者と地域のつ ながりへの影響	地区の住民等とのコミュニケーションの機会が増加した	●	●		●	●
	子どもたちとのコミュニケーションの機会が増加した		●	●	●	●
	地域コミュニティの重要性に気づいた			●		
	その他の地域活動にも積極的に参加するようになった			●		

維持管理活動の高齢者の参加を促す工夫点		けやき	美しが丘	さつき台	高麗川	戸畑区
参加者募集の 情報発信	自治会・町内会、老人会等を通じて参加者を募集する、声かけをする	●	●	●	●	●
	掲示チラシ、会報、ホームページを発行、公開によって、参加者を募集する	●		●	●	
	ボランティアセンター等、行政からの情報発信に掲載する	●				
	特定の地域に限らず、公募等で広く参加者を受け入れる	●	●		●	
	中心メンバーによる推薦からの参加を受け入れる	●	●		●	
	メンバー以外も参加できるイベントを開催する	●		●	●	
参加者の負担 軽減	活動の開催日時等を定例化する	●		●	●	●
	活動への参加を強制しない	●		●	●	●
参加しやすい 雰囲気づくり	グループ内に上下関係をつくらない	●			●	
	活動メンバーによる話し合いの場を開催する	●		●		●
	維持管理等に関する学習の機会（資料配布）を設ける	●	●	●	●	●

維持管理活動の参加する高齢者に与える影響、地域に与える影響		けやき	美しが丘	さつき台	高麗川	戸畑区
参加する高齢者に 与える影響	メンバーの体力の向上につながっている	●				
	メンバーの日々の充実感につながっている	●			●	
	メンバーの住環境に対する意識の向上につながっている		●			●
	メンバーの閉じこもり防止につながっている	●		●		●
地域に与える影響	活動対象の場が地域の交流の拠点となった	●			●	
	魅力的な住環境形成につながっている	●	●			●
	地区内や周辺での住民による新たな維持管理の取り組みのきっかけとなった				●	●
	公園での犯罪防止につながっている	●		●		
参加者と地域のつ ながりへの影響	地区の住民等とのコミュニケーションの機会が増加した	●		●	●	●
	地区に親近感を持つようになった	●				
	その他の地域活動にも積極的に参加するようになった	●		●		

## ■行政・他団体との連携、支援

安全・安心活動の行政・他団体との連携、支援		東初石	幸町	亀戸	長門南部	近文
予算支援 (予算、保険等)	自治体から予算支援を受ける	●	●		●	●
	自治会からの予算支援を受ける	●	●	●	●	
物品支援、管理 (腕章、名札等)	自治体から寄付を受ける		●		●	●
	警察署から寄付を受ける		●			
	小学校やPTAから寄付を受ける					●
	専門家から寄付を受ける					●
	自治会で物品を管理する				●	
技術的支援や 情報共有等	自治体や警察署等が主催する講習会に参加する				●	
	自治体との連携体制をとる		●	●	●	
	警察署や消防署との連携体制をとる(青パトの運行等)	●	●	●	●	●
	小学校やPTAとの連携体制をとる		●	●		●
	防犯協会との連携体制をとる		●		●	
	専門家との共同研究等による連携体制をとる		●			●
	その他の自治会活動との連携を図る			●	●	
	他地区の活動団体との連携を図る			●	●	

## ■その他(活動における苦勞や課題、今後の展望等)

団体名	活動における苦勞や課題、今後の展望等
東初石	<ul style="list-style-type: none"> <li>・放置自転車対策の必要性を感じる。</li> <li>・少子化により、子どもパトロール隊の参加者が少なくなっている。</li> </ul>
幸町	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地区内の安全性の向上により、住民の防犯意識の低下が懸念される。</li> <li>・犯罪ゼロのまちを目指していきたい。</li> </ul>
亀戸	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小中学生への地域行事の呼びかけが難しい。</li> <li>・参加者が怪我をしたり、活動がきっかけで寝たきりになったりしないように気を付けたい。</li> <li>・若い世代にも活動に参加してもらって、世代交代を図っていきたい。</li> </ul>
長門南部	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分たちの地区のみでなく、周囲の地区と連携した防犯活動の必要性を感じている。</li> <li>・足立区が推進する「孤立ゼロプロジェクト」を実施していきたいと考えている。</li> <li>・次の世代の町会員にも活動を深く理解してもらい、担い手になっていてもらいます。</li> </ul>
近文	<ul style="list-style-type: none"> <li>・当初、子どもとの関わりが普段少ないメンバーはコミュニケーションに苦勞した。</li> <li>・定年の引き上げとともに活動の担い手確保が難しくなっている。</li> <li>・活動のマナー化を防ぐために活動内容に適度に刺激を与える必要がある。</li> <li>・子どもたちに、自分の身は自分で守る意識を持ってもらいたい。</li> </ul>

維持管理活動の行政・他団体との連携、支援		けやき	美しが丘	さつき台	高麗川	戸畑区
予算支援 (予算、保険等)	自治体から予算支援を受ける	●		●		●
	自治会からの予算支援を受ける		●	●		
	財団やコンクールの活動助成に応募する		●			
	参加者から会費を集める				●	
物品支援、管理 (用具等)	自治体から寄付を受ける					●
技術的支援や 情報共有等	自治体等が主催する講習会に参加する	●				●
	自治体との連携体制をとる	●			●	●
	土木事務所や河川事務所との連携体制をとる	●	●		●	
	その他の自治会活動との連携を図る			●		
	民間事業者との連携体制をとる		●			
イベントの運営	自治会と運営を連携する			●		
	小学校やPTAと運営を連携する			●		

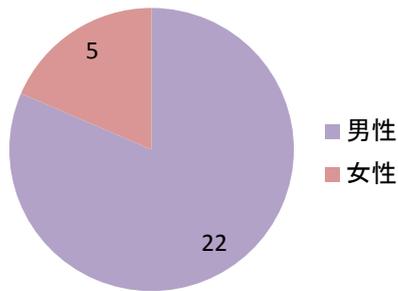
団体名	活動における苦労や課題、今後の展望等
けやき	・メンバーの高齢化に伴い、次世代の担い手の育成が最大の課題となっている。
美しが丘	・住民にとって望ましい歩行者専用道路の管理方法を見出すのが難しい。 ・中心となるメンバーは熱意のある方が望ましいが、その見極めが難しい。 ・近年定員が減ったため、一人一人の負担が大きくなっている。 ・若い世代が移り住んで来たくするような住環境をつくっていききたい。
さつき台	・地区での居住歴によって活動のモチベーションに温度差があり、メンバーが固定化しない工夫の必要性を感じる。 ・子どもや子育て世代と継続的に関わりを持つことが難しく、担い手の確保が課題となっている。 ・現状にとどまらず、活動の範囲や内容を広げていきたい。
高麗川	・ビオトープに隣接する私有地は立ち入れないため、一体的な空間形成ができない。 ・分科会によっては専門家がおらず、新たな活動の展開が難しい状況にある。 ・野鳥の写真撮影を目的とした参加者も紛れており、ビオトープの環境への悪影響が懸念される。 ・若い世代の方々にもっと入ってもらいたい。
戸畑区	・定年後も仕事をしている人が多く、年齢構成のバランスを取ることが難しい。 ・参加者同士の協力体制を築くことが難しく、安定的に参加者を確保できない。市の補助を受けるために必要な人数は維持していききたい。

## 5 個人インタビュー調査結果の整理

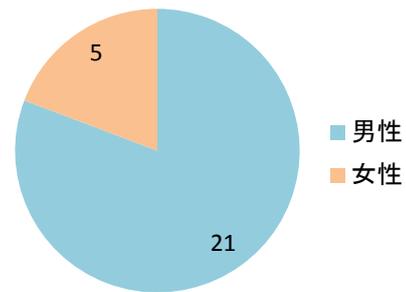
### (1) 調査対象者の概要

個人インタビューを実施した10団体53名の男女の人数構成、年代の人数構成、主な参加のきっかけの内訳は次の通りであった。

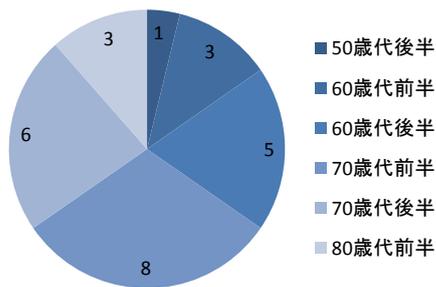
**安全・安心活動のインタビュー調査  
対象者の男女の人数構成**



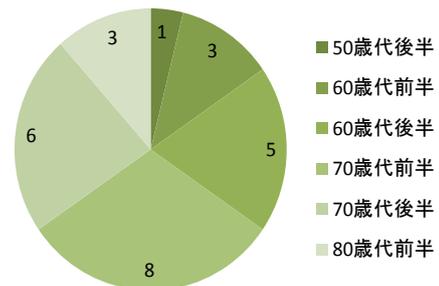
**維持管理活動のインタビュー調査  
対象者の男女の人数構成**



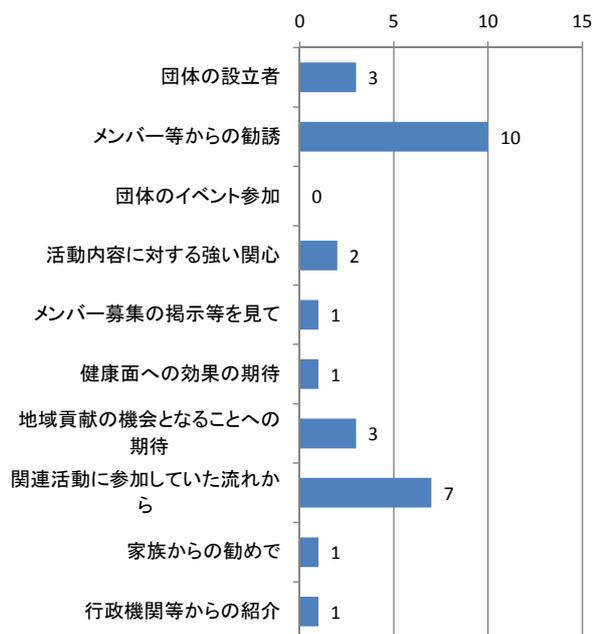
**安全・安心活動のインタビュー調査  
対象者の年代の人数構成**



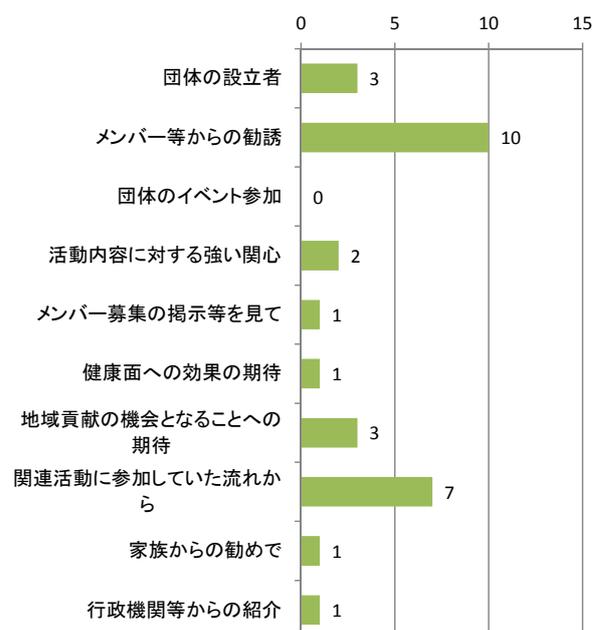
**維持管理活動のインタビュー調査  
対象者の年代の人数構成**



**安全・安心活動のインタビュー調査  
対象者の参加のきっかけ**



**維持管理活動のインタビュー調査  
対象者の参加のきっかけ**



## 2 インタビュー調査結果の質的分析

### 1 質的分析によるインタビューデータ分析のねらいと目的

- ・高齢者の地域活動団体の活動促進要因を探るにあたり、活動参加者インタビューの結果を用いて質的分析を行うことにより、これまであいまいだった活動参加のプロセスの明確化を目指します。
- ・質的研究は、近年、わが国の人文・社会科学の様々な分野で広がりを見せている研究方法であり、対象の意味に注目しつつ、自然場面でデータ収集を行い、基本的に帰納的な分析をおこないつつ、対象を新たな視点からモデル化することを目指す研究上の構えと考えられています。(能智正博 2014 「質的研究過程の実際—テキストの読みから論文執筆まで—」 東京大学教育学研究科, <https://www.facebook.com/events/781709495220042/>)
- ・質的研究の方法論や技法としては、エスノグラフィー、グラウンデッドセオリー (Grounded Theory Approach、以下 GTA)、ライフストーリー法などがあります。中でも GTA は手順の明示性が高いことから適用の範囲が広いとされています。(能智正博 2011 「臨床心理学をまなぶ 6 質的研究法」 東京大学教育学研究科, 東京大学出版会)

### 2 グラウンデッドセオリーアプローチ (GTA) の多様性と特質

#### 1) GTAの種類と今回分析手法の制定

- ・GTAは1967年に「データ対話型理論の発見」(Glaser & Strauss 1967)の中で初めて紹介された質的研究法です。その誕生の背景には、1960年代当時の社会学の研究活動では、構想力豊かな社会学者によって論理・演繹的に導かれた誇大理論が社会学の研究水準を代表するものと位置づけられており、それらから仮説を導き検証を試みるという研究活動が展開されていました。提唱者の2名はこの傾向を批判し、「データを重視した分析から理論生成を促す新しい社会学調査のあり方を提起」してGTAを提唱しました。

(木下康仁 2014 「グラウンデッド・セオリー論\_現代社会学ライブラリー 17」 立教大学社会学科, 弘文堂)

- ・GTAは最初の提唱以来、50年が経過する中で、主に社会学よりは看護領域で定着し、保健、ソーシャルワーク、臨床心理など他のヒューマン・サービス領域を中心に拡大して現在に至っており、現在GTAの名称は質的研究法として世界的にもっともよく知られているものの一つになっています。(木下康仁 2014 「グラウンデッド・セオリー論\_現代社会学ライブラリー 17」 立教大学社会学科, 弘文堂)
- ・GTAは考案者の2人が1990年代に激しく対立したこともあり、様々に分化しています。今日でもその分類論は定まっておらず、その分類は4種とも5種になるともいわれています。このうち、木下(2014)では、①オリジナル版、②Strauss・Corbin版、③Glaser版、そして②の改訂(2008年)を踏まえて独自の分析手法を加えた④Strauss (Corbin) 戈木版(2013年)、さらに、社会構成主義からGTAの再編を提唱した⑤Charmaz版(2012年)、また、オリジナル版への関心から構築された⑥修正版(M-GTA)が実践的質的研究法に基づく認識のもと提唱されています。(木下康仁 2014 「グラウンデッド・セオリー論\_現代社会学ライブラリー 17」 立教大学社会学科, 弘文堂)

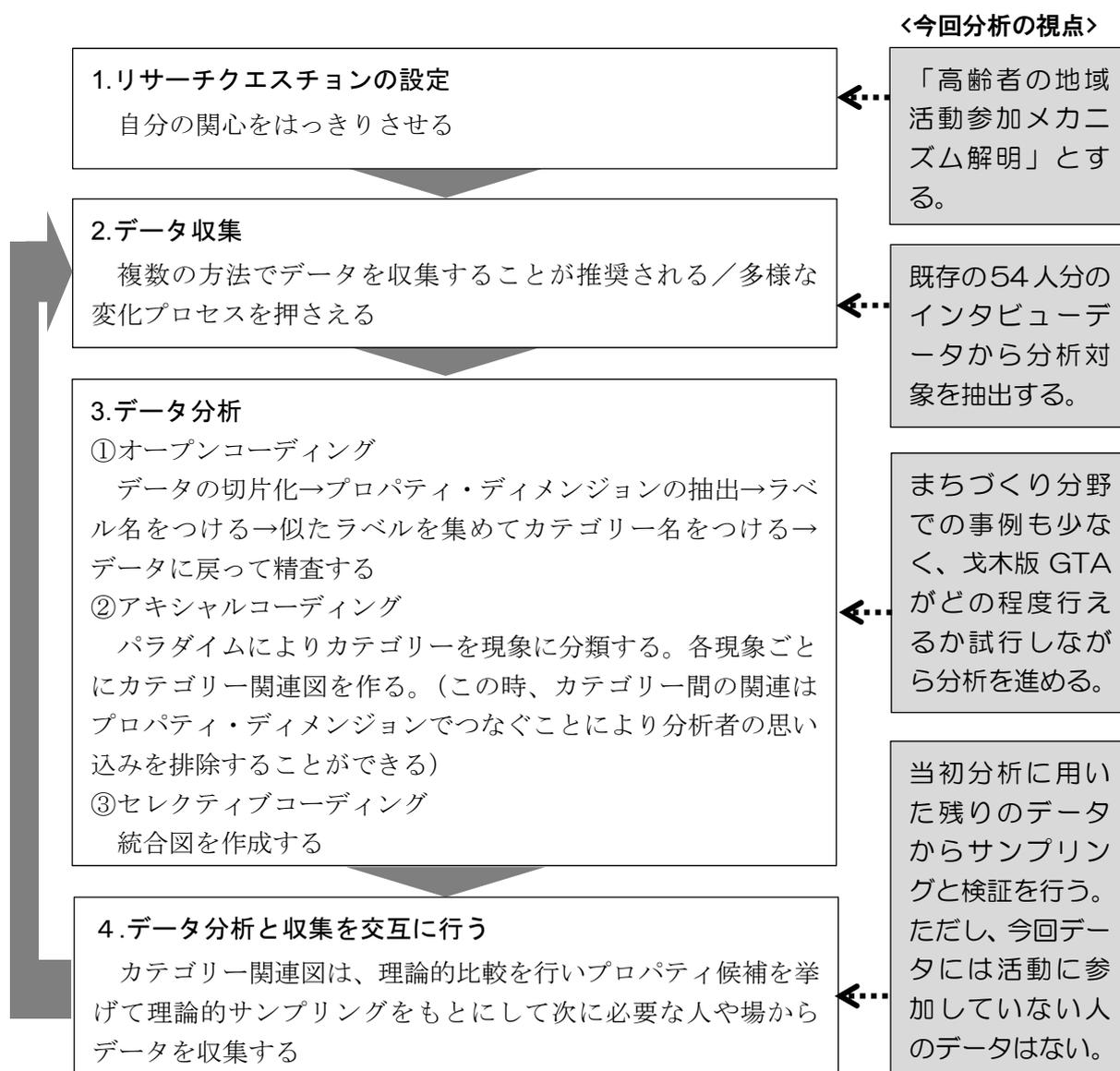
- ・このうち、今回の質的分析では、考案者の一人であるStrauss・Corbinに直接師事し、独自にカテゴリー関連図の作成を提示した④Strauss (Corbin) 戈木版が、具体的なデータと概念の間に明確な対応関係を示せること、カテゴリーの関連性を構造的に捉えつつカテゴリー相互の関連性

を明確に示していたこと、また、分析方法に関する文献が充実していたことから、まちづくり分野で初めて質的分析を行う本稿の取り組みには合っていると考えられたため、この方法によることとしました。(佐藤郁哉 2008 「質的データ分析法」 一橋大学大学院商学研究科, 新曜社)

## 2) G T Aによる分析手法の概要と今回作業上の留意点

- ・Strauss (Corbin) 戈木版によるG T Aの分析方法の基本は次のプロセスを経ることとなります。右には基本の分析法に照らして今回分析に用いる際の留意点を示します。

(戈木クレイグヒル滋子 2014 「グラウンデッド・セオリー・アプローチ概論」 慶應義塾大学看護医療学部健康マネジメント研究科 [http://gakkai.sfc.keio.ac.jp/journal\\_pdf/SFCJ14-1-02.pdf](http://gakkai.sfc.keio.ac.jp/journal_pdf/SFCJ14-1-02.pdf))



### 3 GTAによる質的分析の実施

データ分析にあたっては、GTAに定められている方法論を参考に、既存のインタビューの結果を用いて、次のような視点から作業を行いました。

#### ①分析対象者の選定

分析対象とするデータは、普遍性が高く退職後に地域活動の担い手として期待される次の要件を持つ調査対象者のデータから、GTAに定められた手順を元に分析作業を行いました。

##### ○分析対象者の抽出方法

- ・活動リーダーではない
- ・男性 元勤め人／現在は仕事をしていない／パトロール活動・公園維持管理活動を行っている団体所属／

⇒54名中18名が該当

○詳細分析対象者は、上記のうち活動種別ごとに情報量の多いデータを各3名分ずつ抽出

なお、GTAでは情報量の多いデータを元に1名のカテゴリー関連図に不足する情報を重ねながら分析を行うことが手順となっていますが、今回はまちづくり分野では前例のない質的分析法を用いた検討となることから、各活動種別ごと3名分については並行してカテゴリー関連図を作成し、計6名のカテゴリー関連図をもとに、理論化に向けた統合図を作成することとしました。

最初の詳細分析を行う6名の抽出にあたっては、全体のインタビュー成果を確認した中から、現在の活動参加状況につながる理由などの情報量が多く収集されている者から優先的に選定し、なおかつ、参加のきっかけや活動頻度が異なるデータが収集できるよう配慮して選定しています。

また、残りの12名については、カテゴリー関連図が示す流れに沿ってそれぞれの事例を説明できるかについても確認します。これらのデータから補足できる部分は補足して理論的飽和に近づけていくこととします。

既存のインタビューデータを用いたため、今回の分析には活動に参加していない人のデータは含まれておらず、理論的飽和を説明するには足りない部分があります。しかし、活動参加促進につながる分析は一通り確認できたものと思われま

#### 【防犯パトロール活動について】

##### 《パトロール活動》

- ①東初石D氏（地域つながりあり／毎日）
- ②東初石B氏（地域つながり弱／週1日・出られる時だけ（頻度少ない））
- ③亀戸C氏（地域つながり強い／活動をやめたがっている／週1日）

#### 【公園の維持管理活動について】

##### 《公園維持管理活動》

- ①けやきA氏（地域つながりなし／週1日）
- ②さつき台A氏（知り合い程度／週1日）
- ③けやきC氏（趣味活動多彩／週0.5日）

図 2-1 詳細分析対象6名の概要

## ②基本の分析ルール

カテゴリー関連図の作成に向けた分析作業を行うには細かなルールがあります。カテゴリー関連図を理解する上でも重要な事項として、その概要を次に示します。

- ・分析者は最初にデータをしっかり読み込み、大まかな分析内容を認識し、データへの感性を高める。
- ・インタビューデータの切片化は複数の要旨を含まないよう、細かく分けて設定する。
- ・切片化したデータは、接続詞などのニュアンスに留意し、プロパティ（特性）・ディメンジョン（次元）を設定する、できるだけ発言者の用語を活かして切片ごとにラベルをつける。
- ・分析後のラベルは時系列を超えてバラバラに組み替え、いくつかのカテゴリーにまとめる。その際、複数のラベルをまとめる概念である〈カテゴリー名〉を設定する。
- ・カテゴリー間の関連性を読み解きながら、ラベルの入れ替え。再カテゴリー化などを行いながら、そのデータでまとめるべきパラダイム（大筋）を設定する。
- ・パラダイムは、一つの〈状況〉からスタートし、様々な〈行為/相互行為〉を示すカテゴリー間の関連の経過を経て複数の〈帰結〉に至る図としてまとめる。各カテゴリー間はプロパティ・ディメンジョンで説明できるようまとめる。
- ・各カテゴリーから次のカテゴリーへの矢印は、プロパティ・ディメンジョンにより、必ず2本以上設定すること。
- ・準備したカテゴリーでは説明できない可能性が出てきた場合は点線で仮説を示す。

## ③分析作業を進めていく中で定めたローカルルール

試験的な分析作業を行う中で、分析者によるバイアスや分析レベルを合わせるため、さらに次のようなローカルルールを定めて分析を進めました。

### ○切片化→ラベル付け作業

- ・ラベルを付ける際の主語はできるだけインタビュー本人となるようにする。（所属組織等を主語にしない）
- ・ディメンジョンを出来るだけ量的に把握できるプロパティを設定する（プロパティ・ディメンジョンはカテゴリー関連を整理した後に再度見直す）

### ○カテゴリー関連図作成作業

- ・パラダイムは「地域活動への参加」に統一する。このため、状況と帰結は概ね次のとおり定める
- ・〈状況〉を「地域との関わり」に固定する
- ・〈帰結〉はインタビュー本人の活動の参加状況を示すものとする

## 4 GTAによる質的分析結果の概要

### 1) 個別カテゴリー関連図の成果と特色

- ・2つの活動種別、各3名分のカテゴリー関連図からは次のような傾向が見られました。
- ・**状況（地域とのつながり）**：地域とのつながりがもともとあった者となかった者で大きく最初のきっかけが異なる傾向がありました。特に、活動参加に至る上で、団体に引き込んでくれる人（声をかけてくれる人）の存在は大きいようです。
- ・**帰結**：地域貢献活動とのつながりが見いだせないと早い段階で「地域貢献活動に参加しない」段階が生じています、活動初期に離脱する帰結が生じる一方で、何らかの形で地域貢献活動と出会い、逡巡した後、徐々に活動を継続していく意識を高め、「習慣的な活動参加」が実現しています。一方、これに至らない者の中には「限定的な参加」や「活動から離脱」する可能性が生じています。
- ・**行為／相互行為**：状況から帰結に至る際の要因の設定については、地域内のつながりや役割への意識が比較的強いパトロール活動と個人の満足感や達成感により意識が集まる維持管理活動の特色が見られました。

### 2) 統合図の作成

- ・活動種別ごとに各3者、計6者のカテゴリー関連図をもとに一つの統合図を作成しました。
- ・6者のカテゴリー関連図の統合にあたっては、〈状況〉と〈帰結〉を同様に定めることができそうであったことから統合図は活動種別によらず、ひとつにまとめることとしました。
- ・統合方法としては、それぞれのカテゴリーを比較しながら、似たカテゴリーのものは合わせて新たなカテゴリー名をつけながら、プロパティ・ディメンジョンの整理および、さらにラベルの入れ替え等を行うといったGTAの基本的な考え方に沿った検討を進めました。
- ・重ね合わせの順番は、最も活動頻度が高く多彩なカテゴリーが表出されていた「東初石D」氏を基本としつつ、帰結へつながるプロパティ・ディメンジョンの汎用性が高そうな分析結果が得られていた「けやきA」氏を重ね合わせ、これに活動頻度が低い「東初石B」氏、定年退職後の不安についての情報が追加できる「さつき台A」氏の順に作業しました。
- ・最初の重ね合わせ作業では、まずは4人分のカテゴリー名を活かす形で整理したところ、それぞれの被験者にとって、活動意義の捉え方が大きく異なっていたことから（例：健康維持のために地域活動に参加している人は健康関連のラベルがとても多くなっていた）、カテゴリーの粒度に差があり過ぎてまとまりませんでした。そこで、再度、4人分のカテゴリーをばらして、プロパティ・ディメンジョンのつながりと、表現の粒度を意識しながら、より高次の概念が示せるよう、統合図に向けたカテゴリーの抽象化を進めていきました。
- ・統合図のたたき台ができたところで、さらに2名のカテゴリー関連図を重ね合わせ、プロパティ・ディメンジョンの抽象度をさらに調整したうえで、理論化のもととなる9つのカテゴリーを持つ統合図へとして精査していきました。
- ・統合図を元に残り12人分のデータで確認し、更に用語の精査を高めていきました。

上記の検討により作成した統合図は次ページのとおりです。

けやきA・さつき台A・  
東初石B・東初石D・  
けやきC・亀戸C  
(+12人分のデータで確認)

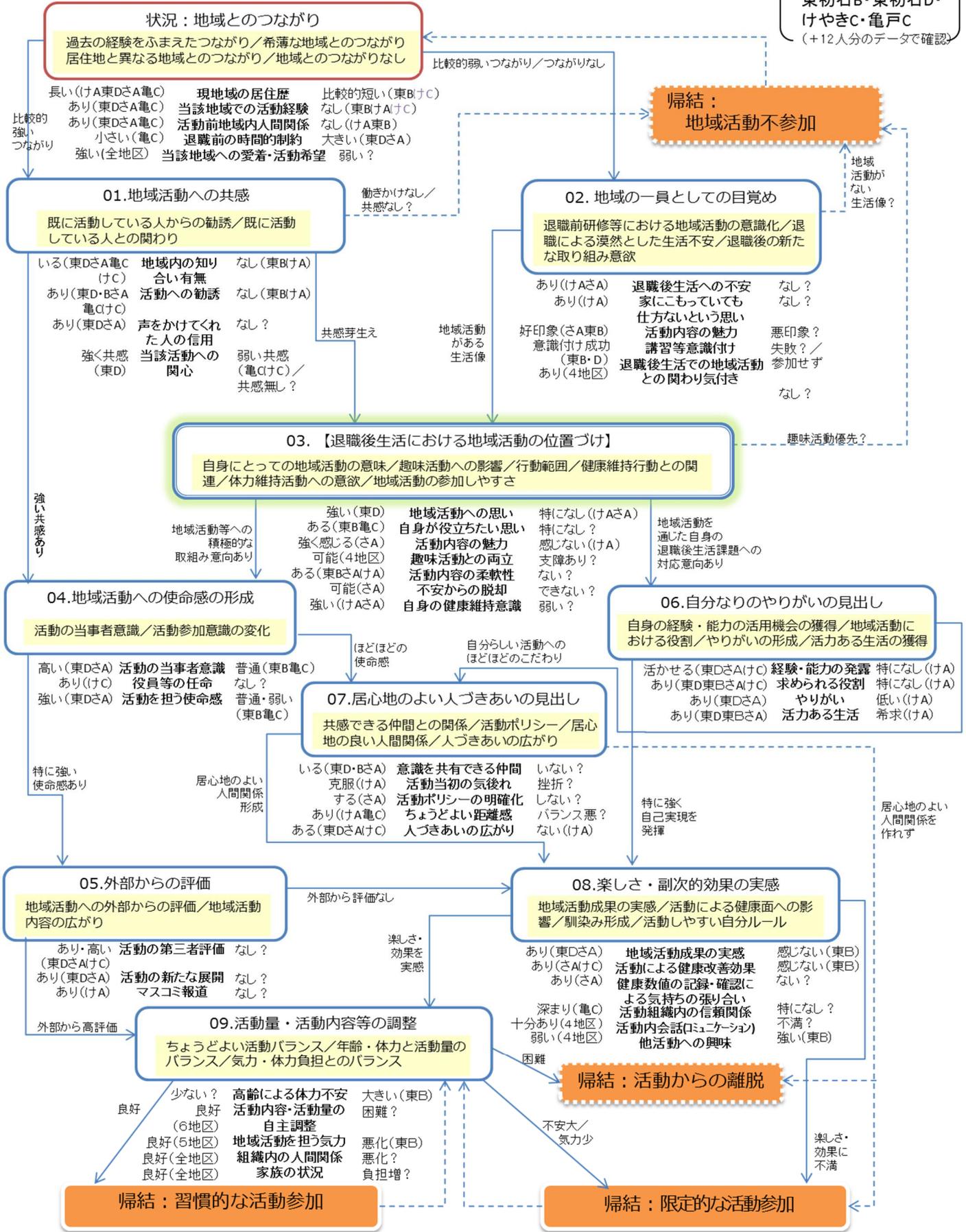


図 2-2 【退職後生活における地域活動の位置づけ】という現象に関わるカテゴリー関連統合図

### 3 活動量計調査の概要

国立研究開発法人建築研究所では、地域活動が高齢者の健康維持・向上に寄与していることを定量的に把握、分析するため、活動量計等を用いて計測し、活動日時や個人属性の視点から高齢者の地域活動参加の影響の把握を行いました。

#### 1 調査対象

本調査は、以下の調査対象者の属性を条件として設定し、地域活動団体3団体を対象に、各団体10名～20名程度を調査対象としました。

地域活動は、防犯パトロール、子ども見守りなど地域の安全・安心に資する活動、道路、公園など都市ストックの適正管理に資する活動を行っている団体を対象としました。

表 3-1 調査対象団体

団体	活動場所	主な活動内容	活動頻度	団体規模	対象者
中小路学区コミュニティ推進会	茨城県日立市	青パトロール／子ども見守り活動／公園の美化活動等	青パト：毎週1回 子供見守り：月に2回	100名以上	17名 (男性7名、女性10名)
東初石1丁目自治会自主防犯パトロール隊	千葉県流山市	防犯パトロール／子供パトロール／高齢者見守り	毎日2回	80名	12名 (男性7名、女性5名)
グループけやき	東京都板橋区	公園の美化活動	毎週日曜日	35～45名 (定期参加は10数名)	12名 (男性8名、女性4名)
合計					41名 (男性22名、女性19名)

#### 2 調査の方法

##### (1) 調査日程について

本調査は、以下の日程で実施しました。

表 3-2 調査対象と調査期間

調査対象	対象		
	グループけやき	中小路学区コミュニティ推進会	東初石一丁目自治会自主防犯パトロール隊
調査期間	平成27年10月26日 ～11月22日	平成27年10月28日 ～11月24日	平成27年11月6日 ～12月3日

## (2) 調査方法について

- ・調査期間中、外出時に活動量計を身につけ、データを蓄積することで、日常生活を送る上での活動量と地域活動を行う際の活動量を定量的に把握しました。
- ・活動量は、歩数、Ex 量、カロリー等を1時間単位等で集計しました。
- ・データは、転送装置を活用してインターネット経由で、サーバーにデータを蓄積しました。
- ・調査期間中は、当該地域活動を行った日時や日常生活を送る上で活動量が多い活動内容を把握するため、被験者に調査表（自宅外の活動日誌）を記入してもらいました。

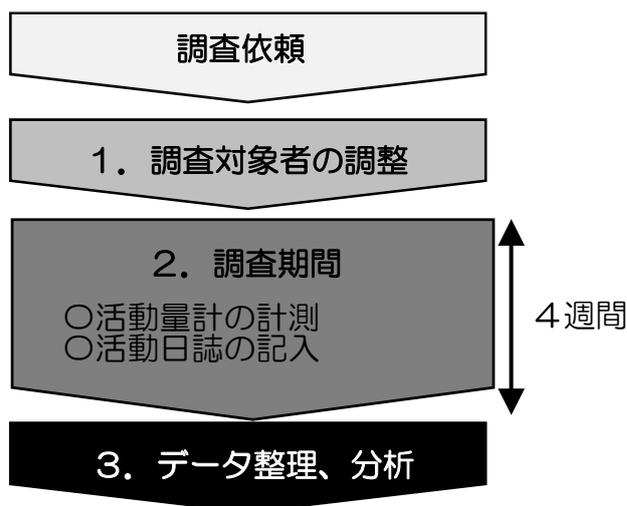


図 3-1 調査の流れ



【出典：オムロンヘルスケア社 HP】

写真 活動量計

## 3 調査結果の概要

### (1) 活動種別と当該地域活動の参加の有無による一日あたりの平均歩数の違い

- ・地域活動への参加は、日常生活における歩行を促すことにつながり、防犯パトロールを行っている団体では地域活動に参加していない日よりも、参加した日の方が一日あたり平均歩数は高い傾向にあります。防犯パトロールの活動は活動頻度が高く、日常的な体を動かす場となっており、地域活動に参加していない日は体を休めていると考えられます。
- ・一方、公園維持管理活動を行っている団体においては、地域活動に参加していない日の方が地域活動に参加している日よりも一日あたり平均歩数は高い傾向にあります。公園維持管理活動は、活動中に多くの歩行を伴わないため、ほどよく体を動かす機会となっており、体を動かしたい人にとっては、地域活動とは別の機会に体をよく動かしていると考えられます。

表 3-3 活動種別と当該地域活動の参加の有無による一日あたり平均歩数の違い

		一日あたり平均歩数		
		参加した日(A)	未参加の日(B)	A-B
公園維持管理 グループけやき	全体平均	6,402	7,649	-1,247
	男性平均【7名】	7,191	8,218	-1,027
	女性平均【3名】	4,822	6,509	-1,247
	前期高齢者等平均(60歳～74歳)【6名】	5,658	7,729	-2,071
	後期高齢者平均(75歳～)【4名】	7,889	7,488	401
防犯パトロール 東初石一丁目自治会自主防犯パトロール隊	全体平均	8,557	5,368	3,190
	男性平均【8名】	9,539	6,043	3,496
	女性平均【4名】	6,988	4,287	2,700
	前期高齢者等平均(60歳～74歳)【6名】	8,012	4,784	3,227
	後期高齢者平均(75歳～)【6名】	9,194	6,048	3,146

(2) 活動種別と一時間あたりの平均歩数と平均活動カロリーの違い

- ・地域活動の種別に着目すると、公園維持管理並びに防犯パトロール活動ともに、地域活動の参加時間帯の方が一時間あたりの平均歩数、平均活動カロリーは未参加の時間帯の平均値よりも高く、健康維持に寄与していると考えられます。
- ・また、多くの歩行を伴う防犯パトロール活動は、公園維持管理活動よりも一時間あたりの平均歩数、平均活動カロリーは総じて高くなっています。
- ・一方、公園維持管理活動は、活動カロリーの消費量が防犯パトロールよりも高くないものの、少ない歩数でより多くの活動カロリーを消費しています。

表 3-4 活動種別と一時間あたりの平均歩数と平均活動カロリーの違い

	一時間あたりの平均歩数(歩)			一時間あたりの平均活動カロリー(kcal)			C/A
	参加した時間(A)	未参加の時間(B)	A-B	参加した時間(C)	未参加の時間(D)	C-D	
公園維持管理 グループけやき	970	499	471	65	35	30	0.07
防犯パトロール 東初石一丁目自治会自主防犯パトロール隊	2,732	307	2,425	103	37	66	0.04

## 4 調査対象団体の概要

表 4-1 調査対象団体の一覧

調査対象団体		所在地	地域類型	活動主体	加入者数	現団体活動の開始時期	活動頻度
安全・安心活動	東初石1丁目自治会 自主防犯パトロール隊	千葉県 流山市	首都圏 ／その他住宅地	地縁型	約80名	平成17年	毎日
	幸町1丁目防犯 パトロール隊	千葉県 千葉市美浜区	首都圏 ／集合住宅団地	地縁型	約130名	平成17年	毎日
	亀戸2丁目団地 管理組合自治会	東京都 江東区	首都圏 ／集合住宅団地	地縁型	約100名	平成16年	週1回
	足立区長門南部町会	東京都 足立区	首都圏 ／その他住宅地	地縁型	約80名	平成7年	月2回
	近文あい運動	北海道 旭川市	地方都市	テーマ型	約250名	平成18年	毎日
維持管理活動	グループけやき	東京都 板橋区	首都圏 ／その他住宅地	テーマ型	約40名	平成12年	週1回
	青葉美しが丘 中部地区アセス委員会	神奈川県 横浜市青葉区	首都圏 ／計画戸建住宅地	地縁型	約20名	平成16年	月1回
	さつき台自治会 公園愛護会	神奈川県 横浜市港南区	首都圏 ／計画戸建住宅地	地縁型	約20名	昭和51年	月2回
	高麗川ふるさとの会	埼玉県 坂戸市	首都圏 ／その他住宅地	テーマ型	約100名	平成15年	週1.2回
	戸畑区老人クラブ 友親会	福岡県 北九州市戸畑区	地方都市	テーマ型	約30名	平成16年	月2回
安全・安心 ／維持管理	中小路学区 コミュニティ推進会	茨城県 日立市	首都圏近郊 ／その他住宅地	地縁型	約3,900名	昭和52年	ほぼ毎日

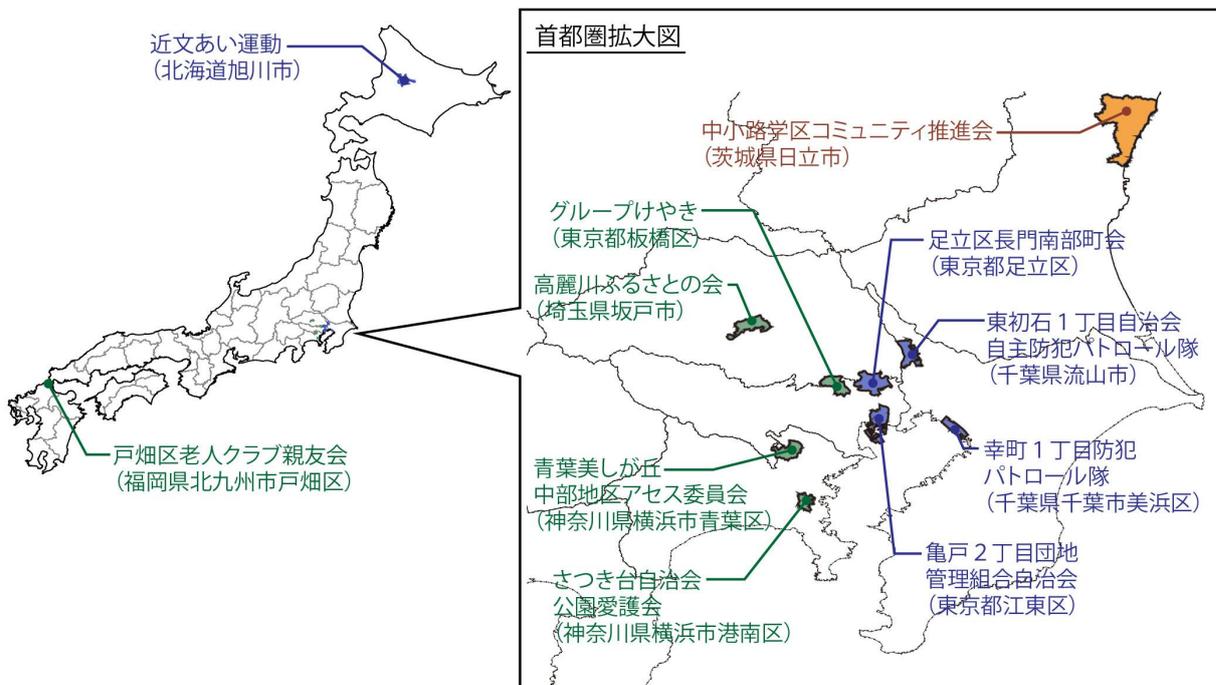


図 4-1 調査対象団体位置図

安全・安心活動①		東初石 1 丁目自治会自主防犯パトロール隊（東初石）	
所在地	千葉県流山市		
活動主体	地縁型		
加入者数	約80名		
現団体活動の開始時期	平成17年		
活動頻度	毎日		
主な活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>・防犯パトロール</li> <li>・子どもパトロール隊の活動支援</li> <li>・高齢者の見守り</li> </ul>		



### ○地区および活動団体の概況

- ・昭和 41（1966）年に常磐自動車道整備構想が公表されたことを契機に、住宅開発が進行した地区です。
- ・常磐自動車道整備が本格的になり始めた昭和 50 年代頃から、常磐自動車道の地下化およびその上部の公園整備に向けて地域活動が活発化しました。
- ・防犯パトロール隊は、東初石 1 丁目自治会区域内において、毎日 2 回（小学生の下校時と夜 8 時頃）10 名程度で見回りを実施しています。



### ○主な活動の経緯

- 平成 15 年： 全国各地で子どもたちが巻き込まれる事件が多発したこと契機に、地区の有志によって流山市で最初のパトロール隊を発足した。
- 平成 17 年： 従前のパトロール隊の活動が停滞し始めたため、自治会が引き継ぐ形で、22 名のメンバーで東初石 1 丁目自治会自主防犯パトロール隊を発足した。
- 平成 19 年： 自治会館が、千葉県公安委員会から「地域防犯情報センター」に指定され、活動の拠点となった。「子ども防犯パトロール隊」を発足した。
- 平成 21 年： 自治会と協力して「高齢者への見守り活動」を開始した。
- 平成 24 年： 防犯ボランティアフォーラム 2012 全国大会および千葉県防犯ボランティア交流大会で活動報告・発表を行った。



活動拠点となっている地域防犯情報センター



自治会予算で作成している防犯ステッカー



パトロール中に発見した悪徳リフォーム被害



子ども防犯パトロール隊の活動

安全・安心活動②		幸町1丁目防犯パトロール隊（幸町）	
所在地	千葉県千葉市美浜区		
活動主体	地縁型		
加入者数	約130名		
現団体活動の開始時期	平成17年		
活動頻度	毎日		
主な活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 防犯パトロール</li> <li>・ 子どもの見守り</li> </ul>		



### ○地区および活動団体の概況

- ・ 昭和 49（1974）年の千葉ガーデンタウン開発によって多くの人々が移り住んだ典型的な集合住宅のベッタウンで、当初から当時の 30, 40 代を中心にまちづくりが展開されました。
- ・ 昭和 58（1983）年に自治会の連絡協議会（36 連協）が発足しました。ほぼ同時に 36 連協をサポートしコミュニティ活動の推進を図るために自治会 OB 等を集めたコミュニティ委員会も発足しました。
- ・ 幸町1丁目防犯パトロール隊は、幸町第三小学校学区内において、「より安全で より元気、より美しい町づくり」という 36 連協の目標に向けて、小学生下校時・夜の 2 チームずつ（徒歩チームと青パトチーム）に分かれて見回りを実施しています。



地図データ©2015 Google, ZENRIN

### ○主な活動の経緯

- 平成 17 年： 地区での犯罪件数が年間 130～140 件起こっており、5 月には一晩で自動車が 5 台盗まれる事件が起きたため、7 月にコミュニティ委員会を中心とした 77 名のメンバーでパトロール隊を結成した。10 月には千葉県防犯協会の青パトを 1 か月間試験運行し、12 月から千葉県西警察署管内防犯協会の広報車でのパトロールを開始した。
- 平成 18 年： PTA や青少年育成員会から活動が理解され、連携体制を取り始めた。
- 平成 19 年： 36 連協で青パト（まもるくん）を保有、運行することを決断する。
- 平成 23 年： 内閣総理大臣賞を受賞し、40, 50 人のメンバーが新規に加入した。
- 平成 24 年： 自転車盗難の被害が多発し、ツーロックキャンペーンを開始した。



36 連協で独自に保有することとなった青パト「まもるくん」の出発式



36 連協が作成している地域安全マップ



隊員に配布している防犯パトロール月報

安全・安心活動③		亀戸2丁目団地管理組合自治会（亀戸）	
所在地	東京都江東区		
活動主体	地縁型		
加入者数	約70名		
現団体活動の開始時期	平成16年（パトロール隊結成）		
活動頻度	週1回夜間巡視（日中は必要時、子どもの見守りは登・下校時随時）		
主な活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>・防犯パトロール・子どもの見守り</li> <li>・高齢者の見守り・防災活動</li> </ul>		

### ○地区および活動団体の概況

- ・昭和44（1969）年に理事会を設立し、その後区分所有法による団地管理組合の明確化等を図ることを目的として平成5（1993）年に自治会を分離・独立させ、亀戸2丁目団地管理組合自治会が結成されました。
- ・設立当初には団地屋上での浮浪者の立ち入りや下着泥棒被害等により、理事会で団地内の見回りを始めました。昭和50年代頃には毎日パトロールが行われるようになり、組織的な現在の夜のパトロールの原点となっています。
- ・現在、パトロール隊は団地内（高層棟屋上や駐車・駐輪場等）およびその周辺で、毎週金曜日の定例日に当番者6名と当日自由参加の奉仕者を加え、15～20名で夜間巡視を行っています。また、近隣PTA、学校との連携、警察署、区の青パト支援等も受け10名程度で子どもの見守り活動を実施しています。



### ○主な活動の経緯

- 平成16年： 当時のリーダーが東京都安全・安心まちづくりアカデミーに参加し、江東区の依頼で個別に見守り活動をしていた方々にその知見を生かそうと話をもち掛けたことをきっかけに、組織的な活動へと発展した。  
自主的な防犯活動団体づくりのために江東区が進めている防犯ボランティア団体支援に登録し、資機材等の支援を受けるようになった。
- 平成25年： 第一亀戸小学校から見守り活動のお返しと子供と地域の居住者の交流を兼ねた清掃活動の申し出があり、コミュニケーションの機会となっている。



亀戸2丁目団地の様子



パトロール隊の詰所



清掃活動を隊員と小学生が行う時の対面式の様子



メンバーによる活動の振り返り

安全・安心活動④		足立区長門南部町会（長門南部）	
所在地	東京都足立区	 <p>(出典：足立区長定例記者会見資料 (H26.11))</p>	
活動主体	地縁型		
加入者数	約80名（町会役員等）		
現団体活動の開始時期	平成7年		
活動頻度	月2回（朝1回、午後1回）		
主な活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>・防犯パトロール</li> <li>・高齢者の見守り</li> <li>・道路、公園の美化活動 等</li> </ul>		

### ○地区および活動団体の概況

- ・準工業地域でありながら工業や商店は少なく、ほとんどが住宅です。住宅のうち約4割が集合住宅、約6割が戸建住宅で、900世帯あるうちの約850世帯が町会加入世帯となっています。
- ・元々は町工場や商店が多く、これらの方が町会役員を務めていましたが、平成5（1993）年に活動運営等が要因で役員構成が変わり、現在はサラリーマンの方々を中心となっています。
- ・足立区長門南部町会は、平成5年以前から歳末の夜のパトロールを実施していましたが、役員改編によって自治会活動が活発化したことをきっかけに、町会内において、朝の徒歩による消火器点検および防災資材点検と、長門小学校学童の下校時の校門での見守り、青パトでのパトロールを月に1回ずつ実施しています。
- ・町内クリーン作戦は春と秋の年2回行っています。



地図データ©2015 Google, ZENRIN

### ○主な活動の経緯

- 平成7年： 地区内での諸犯罪から住民を守るために、消火器点検および防災資材点検、防犯パトロールを始めた。
- 平成19年： 青パトによるパトロールを開始した。また、警視庁綾瀬署長および綾瀬交通安全協会会長から交通安全活動に関する表彰を受けた。
- 平成22年： 児童見守り活動を開始した。また、12月にまちの防犯診断を実施した。
- 平成25年： 警視庁生活安全部長および東京防犯協会連合会長から地域安全運動に関する表彰を受けた。
- 平成26年： 足立区の補助により、2月から地区内に防犯カメラを設置している。



児童、保護者等による防犯パトロール



地域住民による防犯まちづくり憲章づくり

長門南部町会防犯まちづくり憲章

長門南部町会では、子どもから高齢者まで安全で安心できるまちづくりを目指し、この憲章を定めます。

長門南部町会では、

- 一、防犯・防災パトロール活動や、日常生活のなかでの見守り活動を積極的に行います。
- 一、あいさつの声が響くまちを目指します。
- 一、道路、公園などの清掃を定期的に行い、地域の美化に努めます。
- 一、高齢者宅や空き家の情報を共有し、地域で見守ります。
- 一、暗がりなどを定期的に把握し、改善に努めます。
- 一、防犯カメラで上記活動を補い、さらなる安全を目指します。

平成26年2月6日 長門南部町会

長門南部町会防犯まちづくり憲章

安全・安心活動⑤		近文あい運動（近文）	
所在地	北海道旭川市		
活動主体	テーマ型		
加入者数	約250名		
現団体活動の開始時期	平成18年		
活動頻度	毎日		
主な活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもの見守り</li> <li>・高齢者の見守り</li> </ul>		



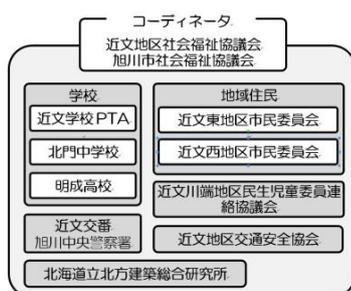
### ○地区および活動団体の概況

- ・12町会からなる近文小学校の校区と一致する旭川市郊外の住宅地であり、地区の周囲には国道12号や道央自動車道の旭川ICがあります。
- ・市内に64の地区市民委員会がある中で、近文地区は市内の戦後にできた振興地域よりも特にまとまりが強い地区です。
- ・近文あい運動は、近文小学校学区内において、近文地区社会福祉協議会が活動の中心となって、毎日低学年の集団下校時に各所で見守り活動を実施しています。また、地区の防犯活動の向上を図るために、安全・安心マップの作成やくらがり調査等にも取り組んでいます。



### ○主な活動の経緯

- 平成17年： 大型ショッピングセンターの出店を契機に、地区内の犯罪不安感が増加したことから、安全性の実態把握のためのアンケート調査を実施し、安全安心マップを作成した。
- 平成18年： 1月に社会福祉協議会が中心となって子どもの見守り活動である「近文あい運動」を開始し、4月には常時100名程度の規模にまで発展した。
- 平成20年： 住まいと街の安全安心プロジェクト（国交省・警察庁）のモデル地区に指定され、これまでの活動の課題や今後の目標、方針、取り組み方策を整理した計画を策定した。
- 平成21年： くらがり調査、集中型見守り量調査を実施した。
- 平成23年： 門灯、玄関灯の効果の確認実験を実施した。



近文あい運動の実施体制



小学生とのふれあい集会の様子



集会での子どもたちからのプレゼント



くらがり調査の様子

維持管理活動①		グループけやき（けやき）	
所在地	東京都板橋区		
活動主体	テーマ型		
加入者数	約40名		
現団体活動の開始時期	平成12年		
活動頻度	週1回		
主な活動	・公園の美化活動		

### ○地区および活動団体の概況

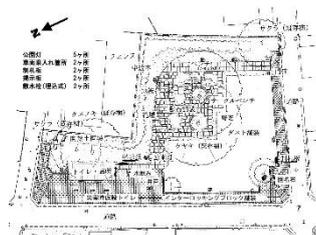
- ・板橋区の南部、東武東上線のときわ台駅から約600m 圏に位置する地域で、マンションや戸建住宅が混在し、近くに富士見台小学校があります。
- ・相続に伴う売却予定であった東武東上線ときわ台駅から北側に延びる商店街の沿道に面する工場併用住宅の跡地において、商店街の会長等の数名で公園整備の要望を出しました。板橋区がこの敷地を取得し、区として初めて住民参加型による公園づくりに取りながら木造賃貸住宅地区整備促進事業を活用して防災公園として整備しました。
- ・グループけやきは、公園整備のワークショップの参加メンバーが中心となって立ち上げられており、区と公園管理に係る協定を結んで、毎週日曜の公園清掃や花壇の手入れ、公園での地域との交流イベント、近隣小学校の総合学習等における協働作業等を実施しています。



地図データ©2015 Google、ZENRIN

### ○主な活動の経緯

- 平成11年： 商店街 70 店舗を中心としたアンケート調査から公園整備の要望を板橋区に出したことをきっかけに、住民参加のワークショップ開催（9回）による公園整備の検討が始まった。
- 平成12年： 「けやきの公園」の開園に合わせてグループけやきが立ち上げられ、板橋区と里親の間で「公園の里親制度」の協定を締結し、活動を開始した。
- 平成14年： 「陽だまりコンサート」「防災体験 in けやきの公園」の毎年秋の開催を開始した。
- 平成15年： 「寄せ植え講習会」「餅つき大会」の開催を開始した。
- 平成16年： 「こいのぼり大会」「七夕まつり」の開催を開始した。



けやきの公園平面図



小学生による  
清掃活動の様子



第10回七夕まつり  
(平成25年7月)の様子



第11回陽だまりコンサート  
(平成24年10月)の様子

維持管理活動②		青葉美しが丘中部地区アセス委員会（美しが丘）	
所在地	神奈川県横浜市青葉区		
活動主体	地縁型		
加入者数	約20名		
現団体活動の開始時期	平成16年		
活動頻度	月1回		
主な活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>街路樹や緑地帯、歩行者専用道路の整備仕様の検討</li> </ul>		

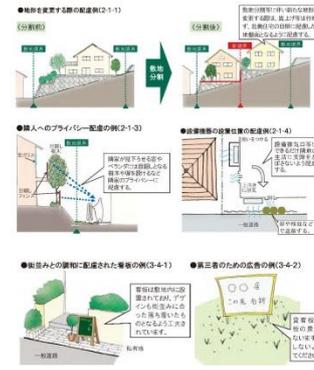
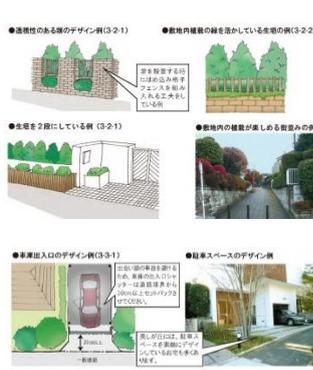
### ○地区および活動団体の概況

- 昭和30年代に東急電鉄によって開発され、日本で先進的にラドバーン方式（歩車道分離方式）を大規模に取り入れた代表的な住宅地です。
- 昭和47（1972）年に、全国初の住民発意での建築協定を締結した。平成16（2004）年には建築協定を地区計画に移行し、開発当初からのまちづくりの理念や住環境を守り続けています。
- 住環境水準や住民意識の低下の懸念から自治会の専門委員会として設立された青葉美しが丘中部地区アセス委員会では、歩行者専用道路・遊歩道の修景計画研究活動やガイドラインのルール見直し検討活動、地区計画施行エリアを示す標識の歩道への設置活動等を実施しています。



### ○主な活動の経緯

- 平成16年： 地区内52路線の道路を歩行者専用道路への認定替え要請書作成にあたって現地を歩いたところ、歩道の劣化が放置されている実態を発見し、自治会に報告。住環境水準や住民意識の維持のためにアセス委員会を設立した。
- 平成18年： ハウジングアンドコミュニティ財団の助成を得た活動で街路樹の樹木診断を実施した。また、すまいのまちなみコンクールで得た助成で地区の詳細調査を実施し、アセス委員会で作成した。
- 平成19年： 道路管理者である横浜市青葉土木事務所から歩行者専用道路の改修について、地元としての意見を求められ、遊歩道改修研究グループがとりまとめた報告書を提出し、改修に向けて意見交換を続けている。



青葉美しが丘中部地区街づくりハンドブック（出典：美しが丘中部自治会HP）

維持管理活動③		さつき台自治会公園愛護会（さつき台）	
所在地	神奈川県横浜市港南区		
活動主体	地縁型		
加入者数	約20名		
現団体活動の開始時期	昭和51年		
活動頻度	月2回		
主な活動	・公園の美化活動		

### ○地区および活動団体の概況

- ・高低差があり、幅員の狭い道路が見られる住宅地であり、地区の北西部にある社宅跡地では開発が進み、子育て世代も入ってきています。また、自治会参加者は、戸建住宅の方だけでなく、マンション居住の方も多くなっています。
- ・地区内には、下永谷東公園、大久保三丁目公園、井戸ノ久保公園、井戸ノ久保北公園、大久保三丁目第二公園、大久保三丁目第三公園及び現在整備中の大久保三丁目第四公園があります。
- ・さつき台自治会公園愛護会は、60～79歳の方を中心に、常時9名ほどで主に下永谷東公園と大久保三丁目公園の清掃活動を実施しており、その他の公園は居住している周囲の人達が個別に清掃を行っています。他にも、農機具の手入や、中低木剪定の講習会に参加しています。また、公園愛護会だけで行っているイベントはないが、自治会等と協力して、運動会や祭を行ったり、畑で採れたものを祭り等で加工食品（ポテトチップスやフライドポテトなど）として販売したりしています。



地図データ©2015 Google、ZENRIN

### ○主な活動の経緯

- 昭和39年：横浜市で公園愛護会制度が設立され、各愛護会が土木事務所から公園管理の依頼を受け、近隣住民に周知する流れであった。
- 昭和51年：老人会がそれまでやっていた地区内の公園がなくなったこと、住宅地整備に合わせて初代リーダーとなる方が提案していた公園が整備されたことをきっかけにさつき台自治会でも公園愛護会が発足した。
- 平成16年頃：草が生い茂っている未使用地に、浮浪者等が立ち入って治安が悪かったため、自治会で開墾した。3段畑となったことで、公園清掃以外の活動が広がった。



下永谷東公園の様子



下永谷東公園の堆肥場



大久保三丁目公園の様子



大久保三丁目公園の花壇

維持管理活動④		高麗川ふるさとの会（高麗川）
所在地	埼玉県坂戸市	
活動主体	テーマ型	
加入者数	約100名	
現団体活動の開始時期	平成15年	
活動頻度	週1,2回	
主な活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>河川の美化活動</li> <li>河川の動植物の観察会、勉強会</li> </ul>	



(出典：高麗川ふるさとの会HP)

### ○地区および活動団体の概況

- 平成8（1996）年に高麗川が「ふるさとの川整備事業」の河川指定を受け、浅羽地区を中心とした河川改修が計画されたが、堤防改修による景観の悪化の懸念から住民による反対運動が起こり、市民の声を整備計画に反映させるために「こまがわ市民会議」が設立されました。
- 意見交換の末、平成15（2003）年に事業の一環として整備された浅羽ビオトープは、多種多様な動植物とふれあい、自然の共生を学べる野外学習の場として多くの市民の方々に活用されています。
- 浅羽ビオトープの維持管理を目的として設立された高麗川ふるさとの会では、ビオトープや河川の清掃のみならず、7つの分科会に分かれて、大学と協働して水質調査等を実施しています。



### ○主な活動の経緯

- 平成15年：浅羽ビオトープが誕生したのを契機に、高麗川の良い水辺環境の修復・保全を願う市民の有志である高麗川勉強会や設立準備委員会のメンバーが中心となって高麗川ふるさとの会を設立した。当初は、設立準備委員会のメンバー5,6名の勧誘により、148名の初期メンバーが集まった。
- 平成22年：武州・入間川プロジェクトの助成を受けた。
- 平成23年：環境省より水環境保全活動功労賞を受賞した。
- 平成24年：城西大学が高麗川プロジェクトを開催した。
- 平成26年：河川協力団体に登録し、みどりの愛護功労者国土交通大臣表彰を受賞した。



分科会名	主な活動内容
環境分科会	草刈り作業、環境デー作業
植生分科会	草刈り作業、散策路整備、植生観察会
水棲・水質分科会	水辺の整備、水質検査
野鳥分科会	野鳥の定期調査、探鳥会
高麗川塾分科会	ボランティアスタッフの主催による講座の開催
学童支援分科会	毎年夏休みに行われる子供たちの自然観察教室での安全管理協力
広報分科会	ふるさとの会全体の運営管理、高麗川にちなむ写真展開催

ふるさとの川整備事業の概要（出典：荒川上流河川事務所HP）

各分科会の主な活動内容

維持管理活動⑤		戸畑区老人クラブ友親会（戸畑区）	
所在地	福岡県北九州市戸畑区		
活動主体	テーマ型		
加入者数	約30名		
現団体活動の開始時期	平成16年		
活動頻度	月2回		
主な活動	・道路および公園の美化活動		

### ○地区および活動団体の概況

- ・昭和34（1959）年に戸畑区沢見2丁目、千防2丁目、小芝2丁目、天神2丁目域内にて結成された老人会であり、現在180名程度が参加しています。
- ・地区内には千防公園（街区公園、1,961㎡）と小芝公園（街区公園、1,991㎡）があります。
- ・戸畑区老人クラブ友親会は、5つの活動グループに分かれており、清掃は自主で集まった活動です。元々は千防公園の茫々な草を見かねて始めた公園清掃や、市の事業での道路清掃でしたが、その後北九州市の公園愛護会や道路サポーター制度に登録し、助成を受けながら活動しています。



### ○主な活動の経緯

- 平成16年頃：千防公園の茫々な草を見かねて、清掃活動を開始した。
- 平成18年：戸畑区老人クラブ友親会で、千防公園と小芝公園の公園愛護会に登録した。
- 平成20年：浅生まれづくり協議会が平成19年12月に道路サポーターの認定を受けたことを知り、1月に道路サポーターに登録した。
- 平成25年：8月に国土交通省が行う「道路ふれあい月間」において、2007北九州市道路サポーターの会の一として表彰を受けた（平成25年時点で登録5年が経過した団体を対象とした市内22団体の一つとして表彰された）。
- 平成26年：1月に北九州市制50周年記念で、美しいまちづくりに貢献した団体としての表彰を受けた。



道路清掃活動の様子



団体で管理している市民花壇



団体の活動拠点となっている集会場

安全・安心活動 ／維持管理活動		中小路学区コミュニティ推進会	
所在地	茨城県日立市		
活動主体	地縁型		
加入者数	約 3,900 名		
現団体活動の開始時期	昭和 52 年		
活動頻度	ほぼ毎日		
主な活動	防犯・防災活動、生活環境活動		

### ○地区および活動団体の概況

- ・日立市の中心部、JR常磐線日立駅から約2Kmに位置する中小路交流センターを活動拠点とし、中小路小学校区で組織された団体です。
- ・駅を中心とした中心市街地の周辺には、マンションや戸建住宅を主体に市街地が広がっているほか、大規模工場や高校なども立地しています。
- ・コミュニティ推進会には、生活環境部、防災防犯部等の7つの部会があり、「防災・防犯」、「生活環境」、「健康づくり」、「福祉」、「見守り」等の活動を行っています。
- ・防災・防犯活動として防犯パトロール、下校時の見守り等を、生活環境活動として不法投棄パトロール、児童公園清掃やあんず並木清掃等を、健康づくり活動として健康ウォーキング、中小路運動教室等を、福祉活動としてふれあいサロンの開催、配食サービス等を、見守り活動としてふれあい回収、要支援者の見守りの活動を行っています。



### ○主な活動の経緯

- 昭和 52 年： 昭和 50 年に「日立市民運動推進連絡協議会」が発足したのを契機に、昭和 52 年に「中小路住みよくする会」として活動が始まった。
- 平成 18 年： その後、地域に根ざした特色ある実践活動が行われるようになり、平成 18 年から「中小路コミュニティ推進会」として活動が開始した。また、平成 21 年には日立市社会福祉協議会と連携して地域特性を生かした福祉活動を行っている。



防犯パトロール



小中学校、商店会などと連携した清掃活動の様子



## 5 高齢者の外出機会や行動範囲

高齢者は加齢により、外出頻度が低下する傾向にあるといわれています。そこで、高齢者の外出機会や行動範囲はどうなっているのかを見てみることにしました。ここでは、国土交通省が実施した平成22年全国都市交通特性調査データから、高齢者の外出機会や行動範囲について見てみることにします。

### 全国都市交通特性調査とは

わが国の都市交通計画・施策のあり方を検討のために、都市規模と都市の交通特性との関係を明らかにすることを主な目的とする全国調査が昭和62年から概ね5年から7年に1度実施されています。調査時点により対象自治体数の変動はありますが、平成22年は130自治体を対象に実施されました。

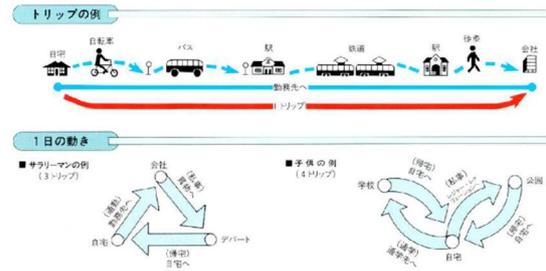
全国都市交通特性調査の特徴には、以下のようなことが挙げられます。

○1自治体あたり500世帯程度を抽出し、それぞれの世帯の人ごとの1日の動き（トリップ）を調査票に記入する形式で行われています。

○全国の都市の交通特性を同一年に平日・休日ともに把握できます。

### ※トリップとは

人がある目的をもってある地点からある地点へ移動した単位をトリップといい、目的が変わるごとにトリップもかわります。1回の移動でいくつかの交通手段を乗り換えても1トリップと数えます。目的が変わると2番目のトリップとなります。



出典：国土交通省：都市における人の動き（第2編）

### ■高齢者の外出機会や行動範囲

この分析では、高齢者の外出機会を「外出率」で、行動範囲を「平均トリップ時間」で見ていることにしました。今回は、平日のデータを用いています。

外出率は、ある人が1回でも外出した記録のある場合は外出ありととらえ、外出ありの個人数を個人サンプル数で除した数値としました。

平均トリップ時間は、トリップ毎の時間を個人毎に集計して、その平均値としました。

### ■全国的な動向

- ・高齢者の外出率（図5-1）は、他の年代よりも低く、女性の方が外出率は低い傾向にあることがわかります。また、後期高齢者になれば、性差による外出率の差が大きくなっています。
- ・平均トリップ時間（図5-2）は、男性は生産年齢世代よりも低いですが、女性はあまり大きな差は見られません。とはいえ、男性の方が行動範囲は広いととらえることができそうです。
- ・地域活動との関係を直接とらえるための調査区分はありませんが、近い目的（ここでは社交・娯楽）で徒歩と自転車での外出を取り出して集計してみました。この区分での外出率（図5-3）では、

65 才未満よりも高齢者の方が高く、前期高齢者が最も高くなっています。前期高齢者では男女の差はありませんが、後期高齢者になると男性の方が高く若干差が見られるようになります。

また、平均トリップ時間（図 5-4）では、同じく前期高齢者が最も高くなっていますが、後期高齢者や性別での差は大きくありません。

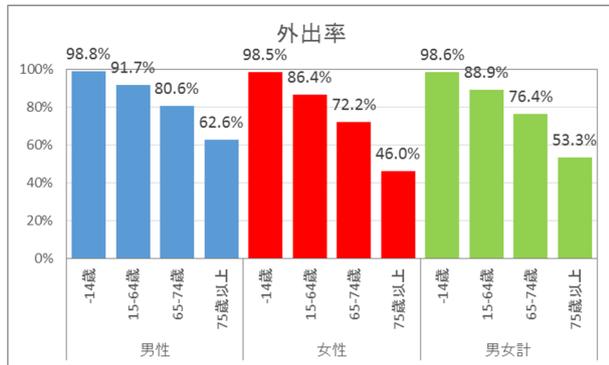


図 5-1 外出率（全目的・手段）

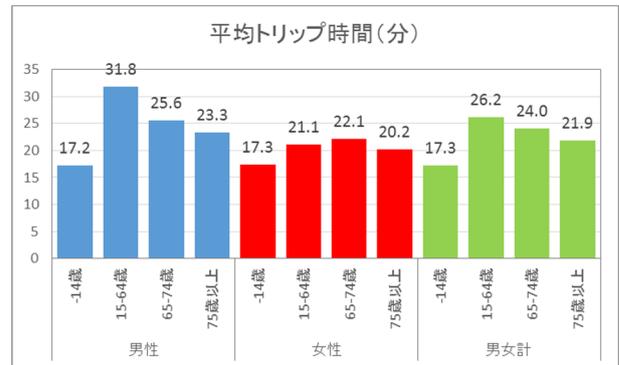


図 5-2 平均トリップ時間（全目的・手段）

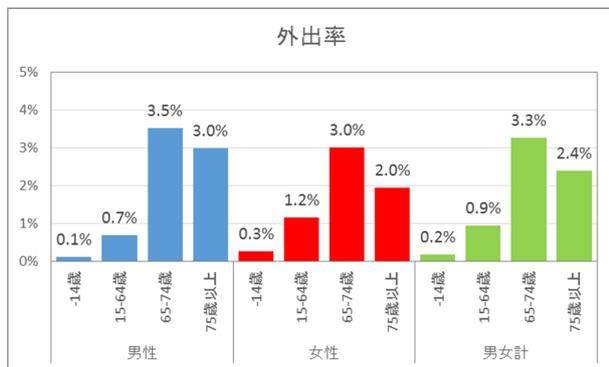


図 5-3 外出率（社交・娯楽、徒歩+自転車）

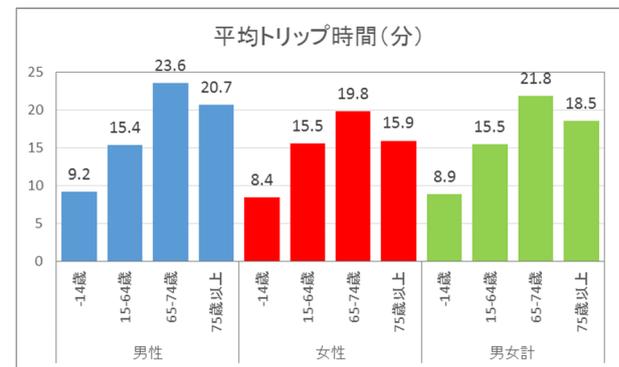


図 5-4 平均トリップ時間（社交・娯楽、徒歩+自転車）

## ■市街地と郊外による違い

- 次に、都市内での違いを見てみることにします。ここでは、人口の多い市街地と少ない郊外での違いを見るために、国勢調査の人口集中地区（以下 DID）内外によって集計をしてみました。

### DID とは

人口集中地区（Densely Inhabited District）と呼ばれ、国勢調査の基本単位区内の人口が、4000人/km<sup>2</sup>以上の区が連続していること、かつ隣接する基本単位区との合計人口が 5000 人以上として定義されています。厳密な意味ではないものの、DID の区域を市街地と見なすことが多く、この分析でもそれに沿って、DID 内を市街地、DID 外を郊外としています。

- 全目的・手段での集計での外出率（図 5-5）を見ると、郊外よりも市街地の方が若干大きく、その差は年齢が上がるごとに大きくなっていることがわかります。この傾向は、男性よりも女性の方がやや大きくなるようです。つまり、市街地よりも郊外の方が、後期高齢者の女性は外出機会が少なくなりますが、男性の外出機会はあまり減らないということが出来ます。また、平均トリップ時間（図 5-6）を見ると、市街地の方が若干長いことがわかりますが、市街地と郊外の差は大きくありません。
- 地域活動と近い目的（社交・娯楽）で徒歩と自転車での外出における外出率（図 5-7）を見てみると、高齢男性の外出率は、市街地と郊外で大きな差が見られますが、後期高齢者の女性ではその差

はあまり大きくありません。また、平均トリップ時間（図5-8）を見てみると、同様に男性の方が市街地と郊外での差が大きい傾向が見られます。

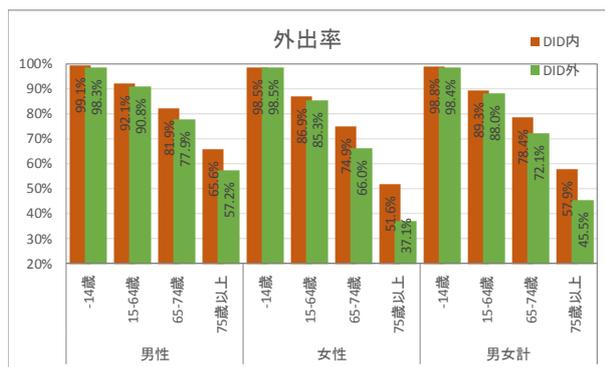


図5-5 外出率（全目的・手段）

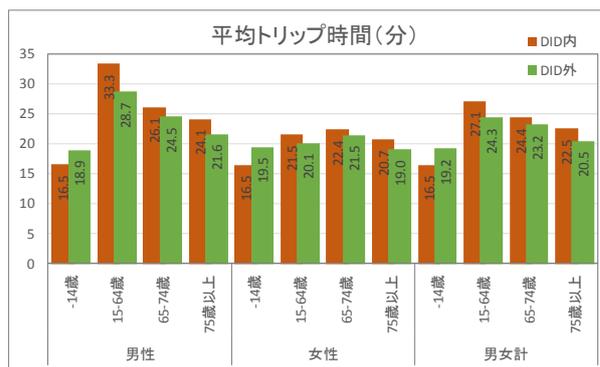


図5-6 平均トリップ時間（全目的・手段）

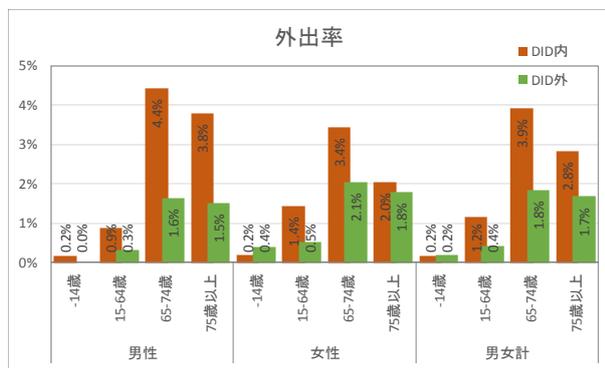


図5-7 外出率（社交・娯楽、徒歩+自転車）

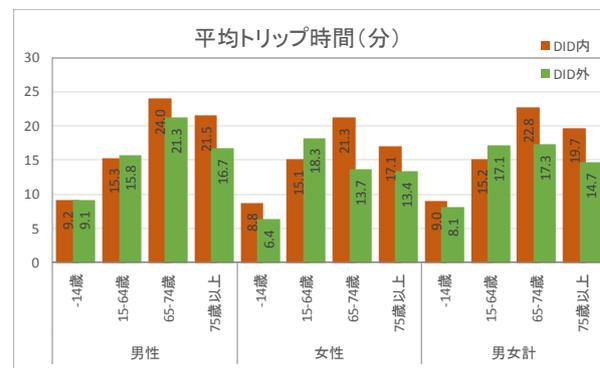


図5-8 平均トリップ時間（社交・娯楽、徒歩+自転車）

・さらに、全国の地域類型別の違いを見てみます。全国都市交通特性調査では、130自治体を14の地域に分類していますが、ここではさらに5地域に再編して見てみることにします（表5-1）。

表5-1 分析において使用した都市類型と対象自治体

都市類型	調査対象市区	調査対象町村
三大都市圏	さいたま市、千葉市、東京区部、横浜市、川崎市、名古屋市、京都市、大阪市、神戸市、取手市、所沢市、松戸市、稲城市、堺市、豊中市、奈良市、青梅市、小田原市、岐阜市、豊橋市、春日井市、津島市、東海市、四日市市、亀山市、近江八幡市、宇治市、泉佐野市、明石市	五霞町、清川村、飛鳥村、南知多町、菟野町、千早赤阪村、稲美町
地方中枢都市圏A	札幌市、仙台市、広島市、北九州市、福岡市、小樽市、千歳市、塩竈市、呉市、大竹市、太宰府市	
地方中核都市圏B	宇都宮市、金沢市、静岡市、松山市、熊本市、鹿児島市、小矢部市、小松市、磐田市、総社市、諫早市、臼杵市	
地方中核都市圏C	弘前市、盛岡市、郡山市、松江市、徳島市、高知市、高崎市、山梨市、海安市、安来市、南国市、浦添市	当別町、余市町、蔵王町、大郷町、安芸太田町、筑前町、築上町
その他の都市	湯沢市、伊那市、上越市、長門市、今治市、人吉市	鷹栖町、大空町、清水町、六戸町、川西町、国見町、益子町、東庄町、入善町、中能登町、玉城町、愛荘町、みなべ町、勝央町、上板町、南関町、大津町、八重瀬町、東川町、広尾町、白糠町、平内町、鱒ヶ沢町、風間浦村、檜葉町、高山村、東吾妻町、立山町、穴水町、佐久穂町、信濃町、南伊勢町、紀北町、南山城村、香美町、紀美野町、智頭町、奥出雲町、和気町、つるぎ町、松野町、中土佐町、相良村、国富町、高千穂町、宜野座村

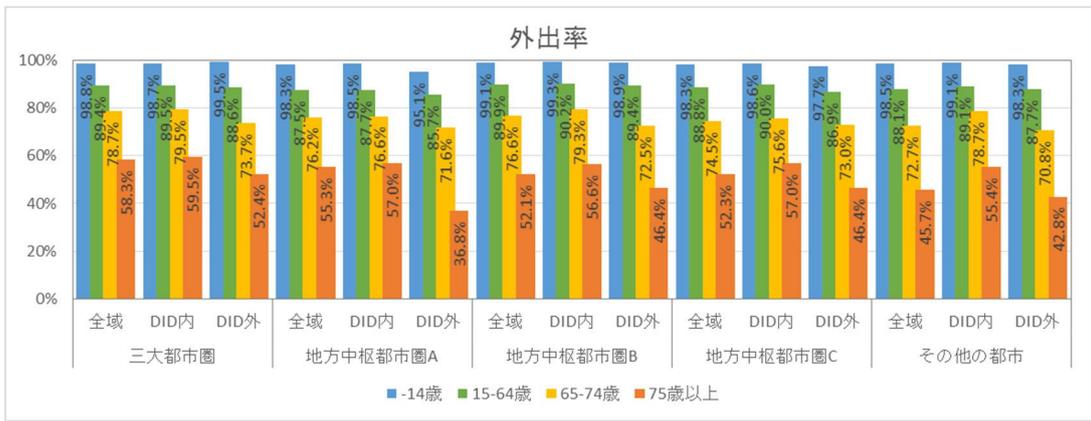


図 5-9 外出率（全目的・手段）

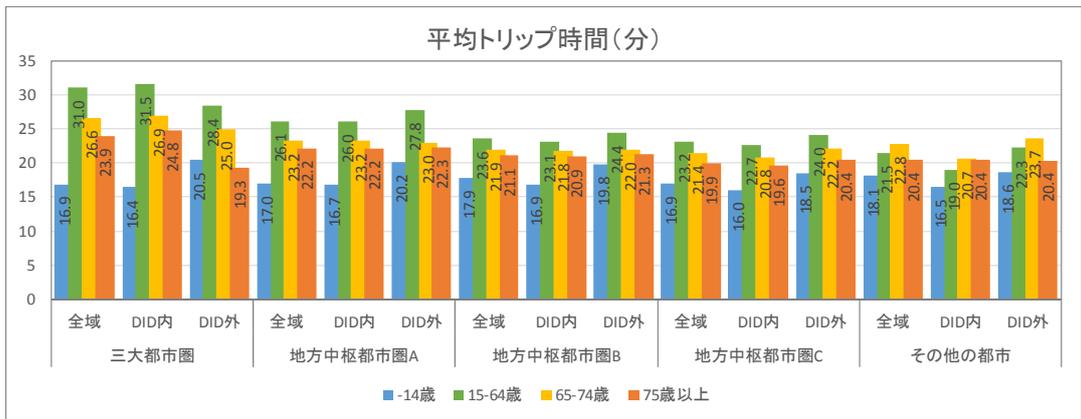


図 5-10 平均トリップ時間（全目的・手段）

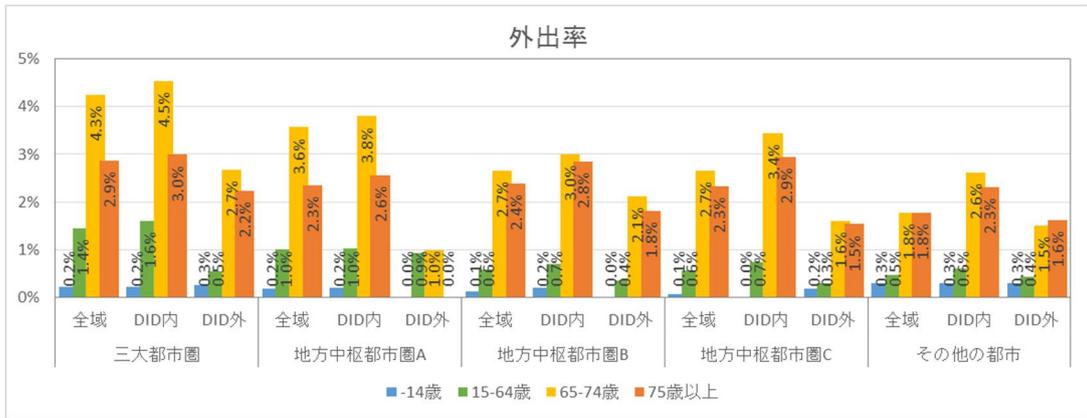


図 5-11 外出率（社交・娯楽、徒歩+自転車）

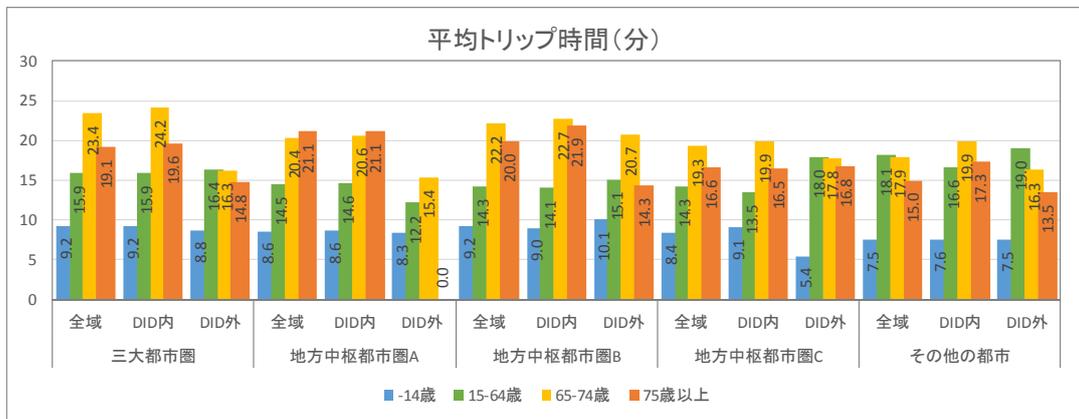


図 5-12 平均トリップ時間（社交・娯楽、徒歩+自転車）

- ・全目的と手段でみた外出率（図 5-9）では、前期高齢者と後期高齢者の外出率は総じて減少することがわかりますが、その減少の度合いの地域的な違いや市街地と郊外での違いは見られません。一方、平均トリップ時間（図 5-10）では、前期高齢者と後期高齢者では大きな違いは見られませんが、総じて減少することがわかります。地域的には、若干ですが、地方に行くほど数分程度トリップ時間が短くなる傾向があることがわかります。
- ・地域活動と近い目的（社交・娯楽）で徒歩と自転車での外出における外出率（図 5-11）を見ると、前期高齢者と後期高齢者の外出率は概して減少する傾向が見られます。さらに地方になれば外出率が下がることと、市街地と郊外での差が大きくなる傾向が見られます。例えば、地方中枢都市 C の前期高齢者の外出率は 2.7% となっていますが、市街地では 3.4% であるのに対して、郊外では 1.6% と約半分以下の外出率になることがわかります。また、平均トリップ時間（図 5-12）を見てみると、概して全目的と手段の場合と同様の傾向となっていますが、地方中枢都市 A では前期高齢者よりも若干ですが後期高齢者の平均トリップ時間が長くなっていることがわかります。

#### ■まとめ

全国的なデータを元に高齢者の行動特性や圏域について統計的に見てみました。全国的なサンプル調査であるため、大まかな傾向をとらえることにとどまりますが、高齢者の年齢階層や地域・市街地との関係が明らかになったと思われまます。

※この分析には、統計法第 33 条に基づき提供を受けた全国都市交通特性調査の調査票情報（国総情建第 204 号）を使用した。

（阪田 知彦）